

# 自動車利用抑制に向けた道路空間の定量的評価

社会システム計画学研究室2008年度卒業研究 吉城秀治

## 研究の背景

生活道路への「抜け道」交通



生活環境の悪化を招いている

- ハード面からの対策  
コミュニティ・ゾーン形成事業
- ＝ 抜本的解決には至っていない

## ● 近年の交通静穏化対策

街路の視覚情報による意識・無意識への訴え



路側帯カラー化

➡ ドライバーの行動選択 (通行・速度等) に影響  
これに着目!

抜け道として使っても良いとは思えない道路空間整備を目指す

このドライバーの漠然としたイメージを理解する有用な手段

「表通り・裏通り」に着目

## 研究の目的

ドライバーの街路に対するイメージを理解し  
抜け道交通抑制の可能性を探る

## 研究の流れ

ドライバー意識に影響を及ぼす街路空間上の要因を把握する

- ① まちなかに存在する景観要素を抽出  
(道路幅員, 中央線, 街路樹, 歩道など)

- ② 3Dキヤドで景観要素の組合せが異なる16種の街路図を作成



例えば右図では道路幅員8.5m, 黄色中央線, 歩道, 柵, 街路樹, 中高層の建物等の景観要素で構成されている

- ③ アンケート調査の実施

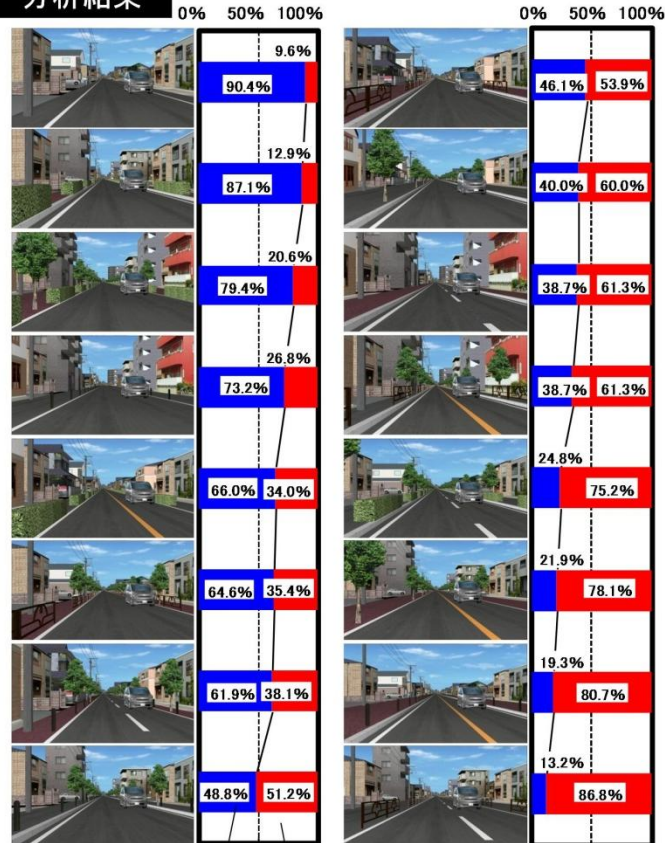
主な調査項目

- ・ドライバーによる街路図の表通り・裏通り判断
- ・まちなかの道路に対する意識
- ・個人属性 など

- ④ 分析



## 分析結果



裏通り 表通り

・街路によって表通り・裏通りの判断に大きな差

・表, 裏の判断は道路幅員だけでなく, 街路空間全体を包括して行われていることを示唆

➡ 判断要因を分析

## 結論

・表, 裏の判断は, 道路空間に関する様々な視覚的な要因が影響

ドライバーの表通り・裏通りの認識は道路の物理的  
空間の改変によってコントロールできることを示唆

道路空間の整備で抜け道交通が抑制できる可能性